

## 10月定例教育委員会会議録

1、開会年月日 令和3年10月19日（火）

2、閉会年月日 令和3年10月19日（火）

3、出席委員氏名

西田 伊作 吉田 義和 西畑 敦司

末浪 真希

4、委員及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名

教 育 長 伊勢 和彦

事 務 局 長 青木 仁

教 育 総 務 課 長 奥村 紀一

ま な び 推 進 課 長 綿谷 圭介

ま な び 推 進 課 付 課 長 長岡 律子

文 化 財 課 長 今里 美恵子

教育総合センター所長 西田 智也

図 書 館 長 河本 由賀

市民総活躍推進課長 石原 康司

教 育 総 務 課 主 幹 前田 貴子

5、会議に付した議案の件名

日程第2 議題 なし

日程第3 報告 9月議会報告について

6、会議の経過議題

開会 午後 2時00分

終了 午後 3時07分

## 1 教育長

それでは、ただいまから10月定例教育委員会を開会いたします。

本日の署名委員は、吉田委員と西畑委員にお願いいたします。よろしく申し上げます。

日程第1、教育長報告をいたします。

まず初めに、修学旅行や運動会の件です。コロナ等で大分ご心配もいただいたのですが、今日は朝和小学校が修学旅行に出発をしています。それで、合わせて今、13校中8校が修学旅行を終えつつあるということです。このまま感染者が少ない中でできたらいいな、と思っています。最終の井戸堂小学校が11月10日に予定しており、何とかそこまで、と思っています。

また、運動会については、幼稚園はこの前の日曜日で全部終了し、小中学校は13校中5校が終わっています。課長と一緒に運動会をあちこち見に歩いているのですが、毎週土曜日に、半日で、親の入替え等をしながら、皆さん工夫をされて、いろいろな感染対策をしたり、スリム化されており、私たちが今までしてきた運動会は何だったのだろう、これで十分ではないだろうか。前々回の教育委員会終了後に西畑委員から「半日開催でいいのではないか」という意見をいただいた事をふと思い出しました。最もコンパクトに纏められていて何を伝えたいのかがよく分かったな、と思った井戸堂小学校の運動会をベースに、纏めてもらうお願いをして、コロナが終わった後の運動会のありようを考える基盤として、半日開催を考えていけたらな、というふうに思っています。それも、お知りおきください。

あと、今日は議会のレジュメがついています。今日は読んでいただ

くだけになっているのですが、1点、そこでどうしても知っておいて  
もらいたいのが、11ページ見てもらえますか。そこに通学路の合同  
点検というのがあります。実は、申し訳ないなと思うのですが、最近、  
私が、まなび推進課の指導主事に厳しく注意した事がありまして。中  
学生が朝の登校中に車のミラーにぶつけられた、と。大きなけがはな  
かったという事なのですが、この車のミラーが割れて、そのまま止ま  
らずに車が立ち去った。これはひき逃げだろう、と。その子は怪我の  
痛みよりもショックで、泣きながら中学校に登校した、ということが、  
随分日が経ってから私のほうに挙がってきた為、これはどういうこと  
なのか、と。天理市内で通学中の子どもがぶつかった時は、現場に行  
かなければならない、私自身も。議会でこういう事を言っている、と  
いうことで、まなび推進課全体でも重く受け止め、課長と私とその現  
場に行き、その後、その子に怪我がないかどうかも含めて確認をしま  
した。11ページの真ん中あたりに「また、今年の8月には千葉県で  
の事故を受けて」と、八街市で痛ましい事故があった事を受けて「新  
しく緊急に、奈良県全部、そして全国で点検があった」ということが  
書いてあります。3点の視点が新たに付け加えられて「見通しのよい  
道路や抜け道になっている道路」これは天理市内に沢山ありました、  
奈良へ行く通勤の抜け道が。「車のスピード出がやすい箇所」あるい  
は「大型車の侵入が多い箇所」「過去に事故がなくても危険な事例が  
あった箇所」については23カ所見つかり、その内、今までの春と秋  
の交通安全の点検で重複している所や、もう既に対策をとられている  
所を除くと、15カ所が残った、ということで、それが資料について  
います、この別紙の資料です。これを是非、今日、教育委員の方々や

他の課の皆さんに見ていただきたい、と私がお願いして資料をつけてもらったのです。この箇所です。八街市であったような事故を二度と起こさないために、もう一度その視点で点検をした、と。その地図がこれだ、と。この中には、もしかしたら通勤で、あるいは買い物等で、ここを通られる方も多いと思うので、やはり教育委員会全部で、この箇所は頭に入れておかなければいけません。「点検終わりました、はい、報告しました」「誰かがきちんと対策をとってくれるだろう、防災安全課がしてくれる、土木課がやってくれる」ではなく、教育委員会みんなが「ここが今回の、あんな痛ましい事故を起こさないために、危ない箇所なのだ」という事を頭に入れておかなければなりません。ここだ、と言われたときに、パッと思い浮かばなければいけません。あるいは、買い物や通勤、何かの用事でここを通った時に「ここは子どもが危ないのではないか」と思わなければならないと思うのです。そのために、これを挙げてもらいました。実は、これが挙がってきて、子どもが朝に通る時間の車の流れを知りたくて、ほぼ全部の箇所を課長と一緒に回りました、朝に。朝と夕方では、絶対に車の流れが違わずです。報告を受けた写真の中には、これはどう見ても朝ではないだろう、これは昼だろう、というものがあるのです。勤務しているのだから仕方がないけれど、朝はどちら向きに車が流れているのか、それを知りたい、ということで、櫛本は私が居たので、よく知っているので回りませんでした、それ以外を回って、歩いて回らなければならない前裁も課長に案内してもらって、何が原因か教えてもらったのです。そして今回、奈良県中の市町村長が全部集まって、今日の夕方にフォーラムを行い、そこで各市の報告をする、ということで、私が

並河市長に代わり参加させていただきます。井戸堂小学校部分の報告をさせていただきます。

井戸堂を見に行ったら、ちょうど子どもたちが数人登校している時に後ろから車が来る事が分かりました。車の流れと同じ方向を向いて歩いている、後ろから車が来るのだ、と。歩道が途中で切れていて、右折の車は歩道が切れている箇所に入ってきて、子供達は後ろから来るので大変危ない、ということも、実際の目で見分かったので、それを今回、報告をさせていただきます。ここにガードパイプをつけたり、ポストコーンをつけたり、路線を補修してもらおう、ということです。

あともう一つ、市長とも共有しまして、市長が言われたのは特に8番、9番、11番ですね、工場のトラックが入るところに通学路があり、これは写真がついていると思うのですが、これも取組が弱い、ということで、実際に、大西指導主事と私と二階堂小学校長が、工場責任者に会いに行きました。そのネジ工場は、写真にあるように、子どもの登校時間はきちんと搬入禁止にしてくれていました。私たちが行くと「全職員に朝礼をしてきちんと伝えます」と責任者から言ってもらえましたし、子どもたちが下校する時刻に何便の荷物の運びがあるのかを伺い、子どもたちが何時から何時までの間に何人通るのか、という資料もお渡ししました。だからドライバーには、ここでこの時間に何人の子どもたちが通るのかということ、会社ぐるみで知ってもらっています。そして学校にも、子どもたちが帰る時間に何台のトラックがここ通るのか、という事を分かって指導してもらおうようにしました。

今日はこの2点について奈良県知事の前で話をするのですが、これ

は天理の自慢だと思って、自慢してこようと思っています。多分、集まった市町村長は、報告を受けて話はしても、誰も現場を見に行っている人はいないと思うのです。それを、教育委員会で全部共有し、市長とも共有し、工場責任者にも会いに行っている、そうしている所は多分、天理だけかなと思うので、今日はそれを話してこようと思います。

これが2点です。皆さんもぜひ通られる時は「子どもの姿はないかな」「危ない要素はないかな」と思って、ここだけを頭に入れてもらう事が、あのような痛ましい事故を本当に起こさないことになる、と思うのです、お願いします。

次に、学力についての資料があるのですが、前回の教育委員会でかけさせてもらい、その時に吉田委員に「やはり、今の全国学力テストが要求している問題に答えられる力は大事だ」という意見をいただいたり、名倉委員さんに「やはり家庭の努力も、もっと必要だ」という意見をいただいたりしたので、A案にしました。上から見てもらったら6行目、7行目ですね。A案とかB案かどちらですか、と。まなび推進課の指導主事も全部A案で、今まで点数が上がらなかったから点数を上げに行くのだ、と。私も校長を5年勤めましたが、その間に居た天理市内の学校で、どの学校でも点数を上げられなかった、ということ踏まえて、そして、この下の3点を踏まえて、2年後の目標を決めました。全体を上げるのではなく「読む」ということの領域の正答率に絞って上げていこう、と。それと、無回答率を減らしていこう、と。これを、校園長会で伝えて、全ての校園長に「これに向けた具体的なプランを出してくれ」と言っています。それを、この会議で諮ら

せてもらって「これを採用しよう」と決め、皆で同じ事をしていく、と。

数年前、沖縄では学力が低くなった、全国へ視察に行き何をしたかと言うと、小中全部でノートの取り方を統一したのですよね、同じノートの取り方について取り組んだ。すると、沖縄の点数は上がりました。やはり全部で同じことをするのは大事なのだな、と思って。ただ、これを市長に話しに行った時、1点良かった事がありました。「ごめんなさい、成績の点数は上がりませんでした。でも、前を向いてやります」という事を伝え「教育委員会でも前回話し合って、点数を上げにいくということになりました」と言ったら、市長は意外にも「いや、力がついていない訳ではないのではないですか」とおっしゃったのです。なぜかと言うと、子どもたちの質問紙で「国語の授業が楽しい」

「算数の授業が楽しい」と、小中学校とも全国平均で答えているのですよ、「大事だと思う」という事も。本当に分かっていなくて力がなかったら「楽しい」とは答えないし、平均よりも下がっているはずだ、と。ただ、天理の子は「テストで時間内に答えられる」というトレーニングが不足しているのだと捉えよう、と。一生懸命しているのに点数が全然上がらず力がつかなかったら先生たちもモチベーションが上がらないが、力はあるのだ、と。子どもたちは「楽しい、国語の授業は大事だ」としっかり言っている、と。だから、今度はテストにそれが反映されるように、ここで言うなら、読むことのテストに力がついて、回答率を上げられるような具体的な施策・方策をとろう、答えられるような方策をとろう、ということに絞りましたので、教育委員さんにもこの後、話される中で「こんな方法はどうですか」とい

うものを、ぜひ具体策として教えてほしいのです。

具体的なことを考える、学校で何をするかを考えるのは、教育委員会の独自権限だ、と私は思っています。こんな教育をしよう、こんな取組をしよう、そこは私たちが押し出していかなければなりません。ぜひ具体策をいただきたい、そして、それを2年間かけて実践して上がらなかったら、やはり一斉の方向はだめだったと思って、皆に意見を言っていただくというのがいい、と思っています。

あと、次もう一つの資料は、働き方改革です。これも教育委員会でご意見をもらいました。

働き方改革については、小学校、中学校、幼稚園の園長の案が全部出揃って、指導主事に精査してもらって、現素案が出来たのです。それで、この前の教育委員会で「各校から1名、働き方改革委員を挙げてください」と、定例校園長会に出した手紙を、今日、見ていただこうと思っていたのです。それを挙げて、そのチームごとに実際に話し合いをする、と。また、素案も本日ご覧いただきます。それで、実際に、具体的に「来年度から働き方改革について、これをします」という話を、教育委員さんの意見もいただきたいな、と思っていますので、お願いします。これが、4点目です。

それから福住プロジェクト、これが物凄く面白くて、課長と私が会議に出ているのですが、福住中学校の跡地に無印良品の店が来る。そして無印良品の店だけではなく、ゆくゆくは更に広げていこう、というものです。ここに、福住小中学校の福住学をコラボして、子どもたちがこの店の運営や経営のアイデアを出していく。よくある、バザーでお手伝いをしましょう、ではなくて、子どもたちが学びとして、本



当に生きたSDGsの学習として、持続可能な開発目標として、企業の利益を生み出しながら、福住を豊かにして行って、環境を守って、自分たちも生きがいのある町づくりをしていこう、というものです。そういう目的で合併する、と。無印良品も乗り気で、そこへもう1社が入ってきます。炭化ユニット、これは竹炭等を炭化させて電気を発生させます。福住は今、間伐などで切っている木が、運ぶ人がいなくて全部そのままになっているのです。持っていけば費用がかかる。このユニットの面白いところは、バイオエネルギー研究所がしておられますが、この発電機はトラックで運べるのです。現地に置いておいて、廃材等を入れて炭化させれば電気が生まれる。いわゆる小さいサイクルで、リサイクルができる、リユースができる。これは、これからの環境問題にとって大きな資産だと思うのです。大きな循環を考えるから、運ぶために費用や人手がかかる。大阪南港にまで持っていかなければならない、というように逆に費用がかかってしまうが、現地で生まれたものを現地で処分してエネルギーに変えていく。このエネルギーはクラフトビールになぞらえて、クラフトエネルギーと言われていました。これをしているのが、2年間天理のブランディングをしたgrafという会社の服部さんですが、ここがバイオエネルギー研究所と提携している。これを聞いて、無印良品の管理職が大変やる気を出されました。ゆくゆく無印は家具を作るので、その時に出た廃材をこの発電機でエネルギーに変えて自分たちで完結する循環を作り、そういった店をどんどん作っていけば、雇用を生み出すだけではなく、福住の子たちが「将来ここで働きたい」、天理の人がみんな「ここで働きたい」と思うような地域に何年後かに変貌するのではないかと。

1つ目の目標は2025年です。万博が来る年にどれだけ発展できるのか。まなび推進課とコラボさせよう、無印良品をコラボさせよう、というのは市長の発案なのです。これは非常に面白い。学校のありようというのは、僕らを変えていかなければなりません。今まで学校で一生懸命やっているからそれでいい、ではなくて、学校に企業が入っていくのです。ICTでも、どんどん企業が入って、企業の力を借りてリモート授業や不登校支援のリモート授業をしています。企業の力とタイアップしながら未来の人材を育成していく、という視点が学校には必要です。だから企業が学校に入って行ってコラボすればいいのではないかと、そう考えています。

櫛本でも、絵の本の広場というのをやっています。この秋から工事をして、学校の中に地域の居場所を作り始めます。学校の中に地域がどんどん入ってもいいではないか、学校の中に企業が入ってもいいではないか、学校のありようを根本的に変えよう、と。折角リモートがあるのだから、先生もフレキシブルに、出勤ももっと大幅に変えていいではないか。あるいは、北中校区、南中校区、西中校区の小学生が1つの同じ授業を見られるようリモート学習があってもいいではないか。そういうふうに、学校のありよう自体を変えていくのです。

「学校のルーティンを変えていけ」というのは、市長の働き方改革の、私への大きな指示なのですが、「1つ2つの行事をなくすのではなく狙いを定めて、狙いを達成する為ならルーティンを大きく変えていく働き方改革をしてほしい」と指示をもらっています。そんな福住プロジェクトなので、ぜひ教育委員さんにも知ってもらって、文教厚生委員がこの福住のオープンスクールを見に行かれるらしいので、やはり

天理の1つの大きな柱として福住があるのだ、ということは、教育委員会として捉えていったらいいのかな、と思っています。リモート学習、リモート授業がこれにマッチングして行って、全国にはない展開ができればすごく面白いのかな、福住以外のところからもリモートで参画できるようになったらもっと面白いのかな、と思っているので、紹介をしました。

また、この10月末に北中学校で町カ塾が始まります。市長も参加するとおっしゃっていましたので、今日、教育委員さんに問題を見てもらいました。地域が、地域の力で、地域に役立つ、地域を支える子どもを作っていく。学校はその一部分にしかすぎないのだ。学校がメインではなくこの町に住む人みんながメインなのだ。「この町をどんな町にしていくのか、その為にどんな教育の場であるのか、どんな保育の場であるのか、ということを考えていきたい」というプロジェクトなのですが、指導主事に「まなび支え合い塾がもうじき始まりますが、この塾の3年後をどう考えていますか」と聞いた時、指導主事は黙っていました。「今は予算がついていて出来るけれども、もう予算はつかなくなる。予算がつかなくなったら止めるのか、中3生を大学生が教えるのを止めるのか、そこまで考えてやりましょう」と。3年後、この町がどうなっているのか、この教育がどうなっているのかを、考えなければなりません。少なくとも企業は3年後5年後を見ているのだから、今年出来たらそれでいいという事ではない、と考えてほしいと。このまなび支え合い塾の3年後はどうするのか、町カ塾とタイアップしようと思っているのかも含めて、その辺の答えの1つが町カ塾の中にあると思っているのですが、またそういった事も教育委員さん

と一緒に考えていきたいと思って、交代された名倉元委員をリーダーとして、このメンバーが「町カのクチバシ」ということで考えていく、ただ単にお手伝いをするのではなくて、そんな学びのありようを、町のありようを考えていくチームとして、西畑委員が「クチバシ」というキーワードを出してくれまして「町カのクチバシ」というメンバーになっていますので、教育委員の皆さんもぜひこういう事に参画してもらえたらな、と思っています。10月29日の金曜日、16時から、北中学校で始まります。

長くなりましたが、私の話は以上です。

今の報告につきまして、何か質疑等ございませんか。

それでは、議題に行きます。

日程第2、議題に移るのですが、本日の議題はありませんので、日程第3の報告に移ります。9月市議会定例会の報告については、資料を事前に送付させていただいておりますので、読み上げは省略させていただきます、教育委員の皆様からの質問を受けさせていただきます。

何かご質問等ございませんか。

#### 1 西畑委員

3点あります。まず1点、6ページ、7ページですね。図書館での電子図書館のお話なのですけれども、これをちょっと読んでみると、割と年齢の高い方もたくさん登録していただいている、ということですよ。

#### 1 図書館長

そうですね、ざっと50代、60代、70代、80代の方が。

## 1 西畑委員

それについて何故そうなっているのか、分析などはされていますか。

## 1 図書館長

分析といいますか、大体、図書館を利用されている方には結構高齢の方が多いいということで、図書館に来られて申し込まれる方が多かったのかな、と皆で言っているのですけれど。公報では「町から町へ」の広報誌掲載や、市民課のデジタルサイネージに掲載しているのですけれど、やはり若い方はちょっと少ない。でも、利用されている方は30代、40代の方が一番多くて、貸出冊数も30代から40代の方が一番多いです。

## 1 西畑委員

電子書籍の特性として、やはり「拡大ができた」ということがあるので、高齢の方でも使っていただきやすいかな、というようなこともありますので、そういう事をアピールされるとか、あるいは、そちらに向けて、例えば健康に関するものについての配本を集中させて特集化するとか、そういうふうにされるとまた延びていきやすいのかなと思うので、そこら辺もまた検討していただいて。

## 1 図書館長

はい、また色々とSNSを使ったり広報に載せたり。また、ちょっと考えているのですけれど、地域で電子図書館利用の説明会をさせていただこうかな、と思っております。

## 1 西畑委員

ご自分のタブレットなどを持ってきていただいて使っていただく、という事ですね。

## 1 図書館長

そうですね。

## 1 西畑委員

次が9ページ、10ページあたりのところです。本市の防災対策について、防災教育については学校で一生懸命やっただいていてということなのですが、学校はそれとして、社会教育としての防災教育というのはどういうふうになっていくのでしょうか。

## 1 まなび推進課付課長

今のところ特に、社会教育団体や他の団体で防災教育はさせていた  
だいていないのですけれども、この一般質問をいただいた時に、やは  
り子ども会等や他の団体でも必要なことだと認識しております。あと、  
公民館の子ども夢づくり教室や高齢者学級等で、以前は防災教育とい  
いますか、赤十字の方々に来ていただいたりなどの企画は、何年か前  
からさせていたお聞きしています。

## 1 市民総活躍推進課長

補足ですが、公民館の事業として、子ども夢づくりの中で消防署へ  
出向いて、消防職員の方からいろいろ防災のことについてお話をし  
ていただく、などという工夫をこのところさせていたお聞きしています。

## 1 西畑委員

実際に災害が起こったりしますと、公民館を避難所にするケースで  
あるとか、学校も勿論そうなのですから、そういうところには何  
回か避難指示などが出ていますよね。私の父親が「今から、ここから  
あそこまで行く間に酷い目に合わないか」などと言っていたのですが  
「そうではなく、災害が起こった場合の色々な事を知ってもらうため」

なのです。実際に災害などが起こった場合、どういう事をすればいいのかについて、案外高齢者には話が通っていないな、という感じもありますので、その辺をまたお願いできたらなと思います。ほかの部局も絡んでくる話かもしれませんが、よろしくお願いします。

最後なのですが、13ページになります。これは学校の話ですけれども、先ほど教育長からも色々お話があり、オンライン授業が進められていて、とてもいいことだなと思います。私も自分の子が「今日は学校に行きたくない」というような時に、このまま放っておいたら不登校にならないか、というのを思いながらも、学校とちゃんと繋がって授業には出ている、翌日に気分を少し変えてまた学校に行く、というようなことも実際に起こっていて、オンライン授業をしてもらっているおかげですごく助かるな、と思っているのですが、例えばいつもの先生が、ご都合で暫く休暇を取られるといった場合に、替わりの先生、臨時の先生が来られる、という時に、その先生の操作が不慣れで、実際にあったのですが、授業が1回分、丸々音声が聞こえないまま、全然そもそも参加できなかった、という例を聞いています。その件に関しては、学校に色々お話をさせていただいたとも聞いているのですけれども、臨時で来られた先生に、ICTのオンライン授業についてのお話というのは、どれぐらい事前にされているのでしょうか。

## 1 まなび推進課長

臨時で来られた方にも、今、オンラインの授業を家庭学習に選んでいる生徒がこれだけいる中で、もう必須といいますか、授業をするということイコール、オンラインで繋いでいく、ということになりますので、最低限きちんとこういう形で家庭に流す、ということは色々な

職員が関わって行っていますが、十分ではないところはあります。臨時で来られた先生でも、例えば若い先生でそういう操作にある程度慣れ親しんでいる人もいれば、臨時の先生が入らない中で学校もあちらこちらから人探しをしてやっと入ってもらったベテランの方が結構高齢で、そういう操作に慣れていないために苦心しながらやっている、というのも、実は学校の現状としてありますので、受ける側の生徒の立場になると、やはり折角オンラインで授業に参加しているのに、という思いがあるのは、これは勿論のことですので、そういったことがないように、周りでサポートをしっかりとしていこうという思いでやってくれていますが、行き届かないところはあるかもしれません。ただ、オンライン授業をやっていくと起きてくる状況について、今、本当にまさしく色々と試行錯誤をしながら、勿論うまくいかない事もありますが、それを決して失敗とするだけではなく「こういうことが起きてくるので、こういうことに留意をして、オンライン授業をしていかななくてはいけない」という蓄積にしよう、と。決してマイナス的な思考だけではなく、今後に生かせるような留意点として、各校で共有をしていけたらな、と思っています。今回も例えば、休み時間の間に切っておいたマイクのスイッチを、次の時間の開始の時に忘れ忘れたということも、どこの学校でも起きがちで、ベテランか若手かは関係なく起きることであるかな、と思いますので、そういったことが起きてくるので気をつけようよ、という共有を是非していきたいと考えています。以上です。

## 1 西畑委員

折角、奈良県内でもトップクラスと言われるような取組になってき



ている、というふうなお話も伺っていますので、そういった色々なヒヤリハットではないですけど、是非そういう事も共有して進めていただけたらなと思います。よろしく申し上げます。

## 1 教育長

ご指摘があって良かったのは「オンライン授業というのは、繋がっている子たちにまず声をかけるのだよ。普通に目の前で聞いている子たちよりも倍の声かけをしてこそ、オンライン授業なのだ」と、校園長会で全部の校長に具体的に指示できたのですね。ただし、そう思っていない人も当然いて「同じように授業をしていたらいいのだ」と。そうではなく「オンライン授業というのは画面の向こうにいる子にこそ声をかけていくのだ、目の前の子らはリアルタイムで温度や表情などが伝わっているから」と伝えれば「そういう思いだったのか」ということを理解できます。オンライン授業の質がまた1つ上がるご指摘だったのかな、ということ全体に言えました。その教師を揶揄するのではなく、こういうことがやはり理解できていなかった。オンライン授業を始める時に、それが理解できていたら当然防げたはずの、誰に声をかけるのか、ということについて、目の前の子どもたちに声をかけるのか、「さあ、いくよ、繋がっているか」と声をかけて授業を始めるのか、ベースはどうなのか、ということがはっきりと確認できたな、と。それは喜んでいきます。

## 1 西畑委員

一般企業で、我々もよくやるのですけれども、今オンライン商談というのがすごく増えているのです。それで、オンライン商談の時はこういうことに気をつけなければいけないよね、という話は、割とビジ

ネス誌などにも沢山出ているのです。そういうものもちよっと参考に  
していただけると、また面白いかもしれません。

## 1 教育長

面白いですね。ありがとうございました。

ちなみに、付け足しておきますと、オンライン授業をコロナ感染の  
恐れで選択しているご家庭ですが、一番多く感染が拡大した時が9月  
9日で268人ですね、これはかなり多いです。そして、だんだん減  
ってきて9月15日に199人です。そして9月30日で89になり、  
最近は10月7日に50、そして10月14日に20というふうに、  
感染の拡大が収まるにつれて急に減ってきた。9月の初めに260、  
270あったのが今は20、30になっているというのが現状です。  
それでもまだ、20や30のご家庭は不安を持っていらっしゃるとい  
うことで、今、手紙を出して、その中の1つとして「不安があればぜ  
ひ学校と相談してください」と。オンライン授業をしているからそれ  
でいい、ではなくて、やはり対面で、あるいは参加をしてもらう、と  
いうことも学校教育の大事な面ですので「何が不安なのか、どうした  
らそれを解消できるのか、それをきちんと学校と一緒に考えさせてく  
ださい」という手紙を、教育委員会から出しています。オンラインだ  
からそのままにしておこう、ではなく、そういうこともすることと、  
それと同時に、今、小中学生全部の子どもたちに50枚入りのマスク  
を1箱ずつ配ったのも「感染対策意識の弱まりに注意してください」  
ということです。子どもたちの2学期の安全な学校生活をキープする  
ために、今こそ、きちんと主体的に、コロナ禍の中を生活していつて  
ほしい、ということで、マスクと同時に手紙を、必ず学級で指導して

配ってください、と伝えています。その辺の取組は、天理市はきっちりしているのかな、と自負しています。教育委員会が、まなび推進課が、しっかり考えてくれているので、修学旅行についても旅行業者を2回呼びました。こういう場合はどうなるのか、こういう場合でこういう場合はどうなるのか等、物凄く細かいことを言って「ここまで細かいシミュレーションをしている市は奈良県内では他にないです」と言ってもらったぐらい、慎重に、まなび推進課が中心になって修学旅行の対応をしてもらっているのかな、と思っています。

以上です。ほか、このことに関して何かありますか。

#### 1 吉田委員

4ページの、休校や自宅学習、リモート学習ですね。その結果、「子どもたちへの影響はどうか」という質問に対して「授業の遅れや学力の低下には至っていない」。それから一番下では「日常生活にはそれほど大きな影響は出ていないと感じる」ということなのですが、今の段階ではもう、こう答えるしかないのかな、というふうには思います。しかし、何かの変化は当然あるだろうと思うのです。今後、各学校で行われるスポーツテストや学力調査など、様々なことがありますので、また纏めていただけることをお待ちしております。

それから、綿谷課長からも教育長からも何度も出されていますけども、リモート教育で何とかコロナを乗り切るために努力してこられた内容を市内の学校全部で共有する、あるいはコロナ後の学校でそれをうまく応用していく、ということは考えてくださっていると思いますので、期待したいなと思っています。

それから、5ページのALTですが、これはJETプログラムでは

ない、どこかの英会話教室の講師の先生を入れる、ということは難しいのでしょうか。少しは安くできるのではないかな、と思うのですけれども。

## 1 まなび推進課長

まず、先ほどのコロナの共有の件、1点目の件ですが、今、各学校において、オンライン授業をどうすればよいかについて、それぞれ皆に、非常に色々な工夫をしてもらっているところがあります。今現在、各校でそういった取組を公有し合うという1つのイベントのようなものを行っており、もう既に3校ほど録画しています。短い時間で「当校はこんな事をしてみました」という内容を動画で撮り、それを配信して市内の教員で共有できる形で行っております。それぞれ関心のある人だけが見ておいてください、ということではなく、本年度は生徒指導講演会が中止となったため、これを職員の研修の場と位置づけて、随時オンラインに上げていくのですが、必ず職員みんながこれに目を通して「こんな事ができるのだな」という内容を共有できたらということで行っています。決して、負担になる、新しいことをしなくてはいけない、ではなく「ちょっとした工夫でこんなことができるよ」というふうな「身近な誰でもできそうな内容を」とお願いしております。今後また、報道資料も上げて取材もしてもらいなさい、ということも市長から聞いていますので、そういったことも出していけたらと考えております。

それから、ALTについては、基本、JETプログラムで継続的にずっと行っておりますので、こういう緊急なことがあった場合には、これまでも、ほかの色々な一般業者さんからはどうですか、とお話を

聞かせてもらっているところではありますが、費用の面であるとか、研修の面であるとか、信頼性の部分であるとかを考えていくと、今のところJETが一番いいのかな、という形でやっているところではあるのです。今後も引き続き色々な業者さんの話を聞いて、検討していきたいなと思っていますが、個人的に英語教室については未確認ですので、また広く考えていけたらと思います。

1 吉田委員

信頼性ということも、大事ですね。

1 まなび推進課長

そうですね。国の事業ということですので。

1 吉田委員

ただ、英語の先生がいて、その補助として入ってもらう訳ですので、市教委で面接など色々な調査をして行っていくことも可能かな、と思うので、考えていただけたらと思います。

最後ですけども、電子図書館ですが、電子図書も貸出し制限5冊までで、5冊まで借りられるわけですね。紙の本は重いので、何度も往復して1冊1冊借りたり返したりは大変ですが、電子図書は借りて2週間たてば自動的に返却されるわけですね。1人が5冊抱え込んでしまつて他の人が予約待ちになっている、となると、これからもっと利用者が増えてきたら勿体ないかな、という気もするのです。だから、これから利用者が増えていって状況がどう変わってくるかを見ながら、ちょっと考えてみてもらってもいいかな、と。今、ホームページを見たら、借りられる本は多いのですけども、予約待ちで4人待ち、3人待ちというのがありましたので、申し込んでいる人が2週間の間5冊

持っておられるというのはちょっとどうか、と思いました。

1 教育長

貴重なご意見でしたね。どうですか。

1 図書館長

そうですね。やはり人気のある電子書籍は予約が入りますが、現状では予約が入っていない書籍も沢山あります。貸出し冊数は先月800冊程度となり、だんだん増えてきている状況ですので、また今後の状況を見ながら考えていきたいと思っております。

1 吉田委員

お願いします。

1 教育長

西畑委員。

1 西畑委員

1冊、1つのタイトルについて何冊か一遍に購入しないといけなかったですね。3冊でしたでしょうか。

1 図書館長

はい。

1 西畑委員

ですよね。3人分は必ずあるわけですね。1冊のタイトルを入れたからといって、その1冊をずっと繰り返し使っているのではなく、3冊あって、今3人借りている人がいて、更に4人待ち5人待ちとなっている本というのがある、ということなので、そんなにぎちぎちに回しているわけではないはずです。

1 吉田委員

1冊を回しているわけではないのですか。

1 西畑委員

そうではないです。

1 吉田委員

3冊あれば、3人待ちでも。

1 西畑委員

全部返してもらえば次の3人は全部借りられる、ということになるので、そんなにきついサイクルで回すような申し込み方はされていないです。

1 教育長

現在図書館で、コロナ禍後の図書館のありようについての提案を色々考えていただいていると思うのです。多分、来月の定例教育委員会では、図書館から具体的な話で提案されると思います。その時に今の電子図書の貸出冊数のことを、一度図書館で論議してもらって、5冊のままでいくのか、今のお話でやはり人気図書は大分待っているというのが分かったので、3冊や2冊にすれば貸出しや借入れがすぐ出来るから変えるのか、という報告もお聞きしたいと思うのですが、よろしいですか。

1 図書館長

はい。

1 教育長

吉田委員、来月にもう一度論議してもらいますので。大変貴重な意見だったと思うのです。図書館の本を借りる事が当たり前だった私達

が、今度電子図書のやり取りをする時に、ルールがこれでいいのかを見直すことは大事な事かな、と思います。

ほかに議会についての報告の中から、質問はありませんか。

1 西田委員

通学路について、先程の別紙の具体的な対策内容で“済”と書いてあるものは、もうハード面での対策は済んでいて、それ以外はこれからされていくということですね。

1 教育長

はい、そうです。何か気になるところがありますか。

1 西田委員

いえ、今後具体的にそういうことをされていく、ということですね。

1 教育長

はい。ありがとうございます。

1 西田委員

もう1点、12ページの校務支援システムの推進のところ、丹波市小学校が試験的に導入をされて、ここにあるご答弁で「一定の成果があった」というように書かれています。事務仕事の軽減によって、生徒と向き合える時間、コミュニケーションを取れる時間が増えた、ということは本当にいいことだな、と思います。その一定の成果の具体例になるかどうかは分かりませんが、先日、丹波市小学校のツーリストシップ教育を見学に行かせていただいたのです。修学旅行前に、ああいう取組は素晴らしいなと思いました。その前後に新居崎校長先生と少し話をさせていただく時間があり、その中で「昨年、修学旅行に行った先の宿泊ホテルで、そのホテルの方から非常にお褒めの言葉



をいただいた」と。ホテル側のその賛辞については「これまで受入れた児童の中でもとびきりだ、というぐらいのお話をいただいた」という内容がすごく印象に残ってしまして。ただ、お話をお伺いしていると、その生徒たちが何か特別なことをしたということではないのです。挨拶ができたり、あるいは感謝の言葉を述べられたり、あるいはホテル内での振る舞いであったり、特別なことではなく、それをしなければならないという感じでもなく、自然に気持ちのいい挨拶ができたり、明るい言葉をかけられたり、という自然な振る舞いが、おそらくホテルの方々に映っていたのだろうな、と感じているのです。そうしたことを、いわゆる事前の学習等で学ぶということは、非常に大切なことだと思うのです。一方では、習慣的にそうしたことを身につけていく、ということが大切で、そんなことを思いますと、校務支援システムの導入で児童との向き合える時間が増えた、ということは、少々でも先生方の心のゆとりや、あるいは気持ちの部分での余裕から、生徒と接する時の表情であったり、さりげない言葉遣いであったり、あるいは先生方の行動というものが、生徒達に対して良い学校の雰囲気などに、繋がっていつているのかなと思います。この間の見学と今回の教育長の答弁とを併せて、そういうふうなことに繋がっていくなら、大変有意義なことだなと思います。来年度から全小中学校に導入されていくということですので、段取りよくスムーズに移行していけたらいいな、と感じました。

## 1 教育長

教育委員会として大事なお話ですよ。今、本当におっしゃってくださったとおり、子供達はきっと、アウトプットできることを沢山も

らっているのですよね。だから、おっしゃるとおり、日頃の学校での  
出会いや触れ合いの中で、そういうことを自然にいっぱいもらってい  
るからこそ、そこでアウトプットが出来たのだろうか、と。市長もよ  
くおっしゃいますが「子どもと接する時間を増やすために働き方改革  
をするのだよ、楽をするため、行事を減らすためにするのではない」  
ということをよく言われています。まさしく今、おっしゃるとおりで、  
ツーリストシップ教育を見に行ってもらって大変良かったな、と思っ  
ています。ありがとうございます。ツーリストシップ教育に行かれた  
方で、何か感想などございますか。お願いします。

#### 1 末浪委員

初めて教育委員として行かせていただいて、ツーリストシップ教育  
という言葉も初めてでしたが、スポーツマンシップというようなもの  
だ、という例をいただいて、子供達にもストーンと入ったような感じ  
です。そういうことで考えていくと、丹波市小学校の取組は、教育委員  
会の中で始まった学力向上の取り組みだけではなく、それ以外の学校  
で教えてもらえない、数値で計れない取り組みというところが、ツー  
リストシップを通して人との接し方を学んでいく一つの入口になるの  
かな、というふうに思い、この両輪を回していくような考え方を教育  
委員会でもしていきたいと思いました。

#### 1 教育長

ありがとうございます。大事なことですよね。ほかにツーリストシ  
ップについてはよろしいですか。

それ以外の議案については何かありますか。お願いします。

## 1 末浪委員

14ページのところで、オンラインの授業について、西畑委員と吉田委員が話してくださり、今後シェアしていくというお話を綿谷課長がしてくださいました中で、シェアとは具体的にどうするのか、ということをお聞かせいただきました。動画を撮ってアップしたものを皆さんが必ず見るというスタイルで、それを見て同時にどうだったかということシェアするオンラインの場は勿論あるだろうけれども、もう一つできれば、先進で進んでいる天理市だからこそ、それらのデータをとって、トラブル検索表のようなものが出来るようになったらいいなと思っていて、それが天理市から奈良県下で出来るようになり、更に全国で出来るような。1つそういうのが出来ていると、その後は割と簡単にといいますか、オンラインの授業でありがちな事というのは、よほどのことがない限り知れているのではないかなと思うので、その仕組みがあると教師もスムーズに出来るようになると思いますし、そこにかかる時間も減って、子どもと関われるところも増えるのではないかな、というふうに思いました。年間不良のエラーというのは、年度末どの程度でひと区切りというふうに考えておられますかね。

## 1 まなび推進課長

区切りですか。

## 1 末浪委員

見させていただいたのですが、3校が動画を撮り、それを全員で見る期限がいつまで、市内の教師たちがそれを同時オンラインでシェアする場のようなものが、いつ頃までに考えられていて、そういう冊子などが、例えば年度末、できれば次年度スムーズにできるかな

ど、そういう案はどの程度なのか。

#### 1 まなび推進課長

現在、10月と11月に大体学校を半分ずつぐらいに割り当て、準備でき次第、連絡をいただいたら撮影に行く、という形にしておりますので、11月終わりぐらいには、全ての学校から出てきたものを皆で見られます。それが一旦終わりましたも、随時「こんなことができるよ」というのは終わらず、どんどん連絡いただいて、また上げて、という形にしていけたらと思っているのです。そこには、教員が入れるクラスルームというところがあり、言ったことについてコメントも入れられますので、それこそ“いいね”ではないですが「こういうところは悪かった」「これは参考になる」というようなことを返していく形で、より現場の先生もやる気になってもらえたら、というのもあると思います。トラブル事例なども、今までは「何とか使いましょう」と言っていましたが、使ってみて、「こんなことができた」「こんな失敗があった」という事がどんどん出てきている時ですので、是非それはそのまま終わらずに、末浪委員がおっしゃったように、蓄積して共有していくことで、更に充実すると思いますので、是非そこは取り組んでいけたらと思います。

#### 1 末浪委員

自分の失敗に対して「こういう対策ができるよ」と思っているも、ほかの人から見たら「こういうのもできるよ」「ああいうのもできるよ」というのが、多分あると思うので、皆のそういう話が聞けるような、何かそういう時間がオンラインで出来たらいいな、というふうに思います。

## 1 まなび推進課長

そうですね。はい。

## 1 教育長

ありがとうございます。是非、トラブル集・失敗集を作りましょう。トラブル集・失敗集はとても大事です。今朝、建築関係の経営者が来てくれて話をしていたのですけれど、初めはみんな失敗するのだ、と言われるのです。失敗をするのが大事なのだ、と。失敗をどうするかで人材を輝かすのだ、人材を輝かせるのは現場なのだ、という話を今日お聞きして、まさしく今話された「失敗をどう残していくのか」がとても大事なことですね。こんな失敗もあったよ、オンラインする時にオンラインの所にプリントが届いていなかったこともあったよ、という失敗は、誰がしたのかではなく、こんな例があったよ、ときちんと残していかなければならない。むしろ、そういう事が財産だと思えましたね。なので是非失敗集作成を指示してもらって、「こんな解決方法がある」という意見を募集したら、もっと色々な意見が集まるかなと思います。

## 1 末浪委員

それこそ西畑委員がおっしゃった、企業のそういった特集が本当に参考になると思いますので。

## 1 教育長

お願いします。

## 1 末浪委員

あともう1点通学路の安全確保の件ですけれども、先ほど3つの項目、観点から、各学校への報告を纏めたというもので、各学校から挙

がった報告というのは、これはそもそも学校がずっと、ここは危ない  
なと思っているところなのか、それとも今現在、子どもが通っている  
現場の声なのか、子どもからの声なのか、保護者からの声なのか？

#### 1 まなび推進課長

基本的には、春に一回、交通安全運動期間中に挙がってきているもの  
に加えて、学校がもう一回この視点で見直してみよう、ということ  
で挙がってきているものです。基本的に学校職員の視点からではある  
のですが、学校によっては地域の声であったりします。子供はなかなか  
かそういうのは見つけにくいかな、と思うのですが、そういったこと  
を盛り込みながら挙げていただいているところでございます。時々、  
その地域の方から直接お電話をいただくことがあり、その場合も承る  
のですが「学校にも声をかけてください、学校から挙げてもらったら、  
通学路にそういう対策もしていきます」として、地域の方からいただ  
くこともあります。

#### 1 末浪委員

分かりました。その点で、7番の喜殿町の交差点というところですが、  
数年前、喜殿町から通う学校の子供というのは、年間で毎年5、  
6人しかいないのですけれども、この道路を渡って田んぼ道を通って  
いまして、そこの道路が大きくなってから交通量が凄く多くなり、本  
当に危ないのですね。そこで「信号を押しボタンでいいから付けたい」  
という活動のために、教育委員会に行ったのです。当時の教育長に  
「こうなっているのですが、どういう活動をしたらいいですか」と言  
うと「一応、信号を付けるのは警察の担当だから、まず警察に行っ  
てください」と言われたのです。それから警察にも行ってお話をさせてい

ただいたのですけれども、なかなか「直に」ということは難しく、例えば、何か大きな事故があれば考えるが、というようなことを言われ、やはり何か大きな事故が起こってからではないと無理なのか、と。今付いたのは、ボタンを押すと「歩行者横断中注意」と、ピコピコとランプが付く程度ですね。でも、それを見ても、車が止まる為の法的な抑止措置がなく、ほぼ止まらないです。そのため、子供達が立って、付添いの大人がいる時には大人もアピールをして、何とか片方が止まって、向こうが止まったからこっちも止まろうか、という感じで渡っている状態で、そういう行動や活動をして、そこまでしか出来ない、というところがあります。そういう事例がもっと沢山あるのではないかな、というふうに思うのです。前裁では、子供たちが、恐らく自分たちで、危険な場所について授業でやっていたりするのを見たことがあるので、学校側から見ただけではなく、現場の声をもう一度見返せば、まだまだこういう事例があるのではないかな、というふうに思っています。

## 1 教育長

今の信号機は、色々な条件で、付けられない場合も多々ありますよね。私が山の辺小学校の教頭の時、天理市の交通課警部補と大変激しく言い争って話し合いました。ただ、横断歩道ですので、ダイヤモンドマークがついていれば、何回か警察に「立ちに来てください」という申出はできますよね。あれは、法的に根拠がありますでしょう。歩行者がいる時、車が横断歩道で止まらなければ、車の罰則規定になるのですよ。ダイヤモンドは止まれ、を知らないドライバーも割といますから。歩行者がいれば止まらなければ法律違反だよ、というマーク

なので、その徹底を、警察にも立ちに来てもらったらいいね。あの工場に行った時に聞いたのですが、工場が警察にお願いをした事があるそうです。工場前の車については、ダンプカーが朝入るのを止めてくれているのです。ところが通勤の抜け道に使われているから、工場が警察に電話をして「うちの車は危なくないが、通勤の裏道だから警察に来てほしい」と言い、何回か立ちに来てもらったそうです。でもそれは、何回か、で終わるのですけれどね。あれで1度か2度、捕まえてもらったら罰金だけではなく減点になりますよね。ダイヤモンドに歩行者がいる時に車が止まらないのは罰則規定なのに、全然止まらないのだ、と警察に言って、立ちに来てもらったらいいね。捕まえてもらったら、もっと抑止力になります。何回かに1回警察が立っていれば、効果があったりしますので「警察に立ちに来てほしい」という事は、信号機を付けるより早いと思うのですけどね。どうでしょうか。

#### 1 西畑委員

何年か前に、罰則がちょっと強化されていますよね。最近、年に何回かですが、「歩行者横断停止」の取締り強化について、天理署の中でも2、3ヵ月に1回、行っておられるので、その一環として来てもらうというのもいいと思います。

#### 1 末浪委員

今、こうやってマップが出ていますけども、この現場の地元の方から、例えば警察にお願いすると、学校側からと更に地元側からと、警察の方も2ヵ所から来た、となるかもしれない。

#### 1 教育長

私は区長さんからも聞きましたね。連携しながら、ということで。



## 1 まなび推進課長

場所によっては、区長さんも一緒に、今回、合同点検をしていますので、一緒に立ち会っていただいています。何かを設置する際には、地元の方の了承がないとできませんので、そうやって入っていただくことがあります。一旦、対策をしても、同じ箇所でも何回も挙がってくることもあるのです。ですので、対策してもやはりまだ危ないので挙げておいて「ほかにまだ対策ができないか」と。対策ができなければ、あとは警察の方に来ていただいて、見回りをちょっと強化していただくなど、最後はそういったことにもなってくると思うので、また続けていけたらと思います。

## 1 末浪委員

今、教育長がおっしゃったような情報は、私も自分が無知だったこともあるのですが、「警察に立ってもらえることができる」という事は、現場の方も知らないかと思うので、学校側も周知していただくという情報かなというふうに思いました。ありがとうございました。

## 1 教育長

ありがとうございました。貴重な意見を沢山いただいたと思います。ほかにありますか。よろしいでしょうか。

それでは、これをもちまして、本日の定例教育委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

閉会 午後 3時07分